対面リーディング通信

2021年 8月

2021年8月1日 発行　　第200号（隔月刊）

<u>警報発令時のボランティア活動について</u>

新型コロナウイルスの感染状況がまだ予断を許さない中、昨今は大雨などの自然災害も被害の大きさを増してきています。

これからの台風シーズンに向け、改めて警報発令時のボランティア活動についてご確認下さい。

当館では<u>大阪市内に「暴風警報」または「特別警報」が発令された場合</u>、以下のように館内のサービスとボランティア活動を休止いたします。

①午前７時現在、大阪市内に暴風警報か特別警報が出ている場合＝午後１時まで休止
②午前10時現在、上記の警報が出ている場合＝全日休止
③午前10時以降に出た場合＝警報が出た時点で休止
④その他、館長が危険と判断した場合は休館することがある

当館の規定は上記の通りですが、お住まいの地域によっては大阪市内に警報が発令されていなくても局地的な大雨が降っていたり、交通機関が止まっていることも考えられます。来館に危険があると予想される場合にはくれぐれも無理をせず、安全確保を第一に考えてご判断をお願いいたします。

職員は可能な限り出勤して業務を行いますので、判断に迷われた時は10ページ右下の対面専用番号か代表番号（06-6441-0015）まで、遠慮なくご連絡ください。

今月号の主な内容

警報発令時のボランティア活動について			1
誌上勉強会	日本語の乱れとは	木村　謹治	2
寄り道・回り道	ハザードマップ	木村　謹治	6
情報発信	漢字あれこれ（その４）	澤井　稔	9
お知らせ			10

木村 謹治（きむら きんじ）

対面リーディングの実際 45

― 日本語の乱れとは ―

公職選挙法違反（買収）の罪に問われていた河井克行元法相は起訴事実の大半を認めるとともに、議員辞職しました。

問題となっているのは、二階俊博幹事長の発言です。二階氏は「党としても他山の石としてしっかり対応していかなくてはならない」と述べた事です。

「他山の石とする」とは他人の誤った言行やつまらない出来事でもそれを参考にしてよく用いれば，自分の修養の助けとなるという意味です。

ツイッター上では「他山じゃなく、当事者なのに」「自分の山でしょ」といった批判が寄せられ、「他人事のようで、無責任」な発言だと批判する声も多くあがっています。

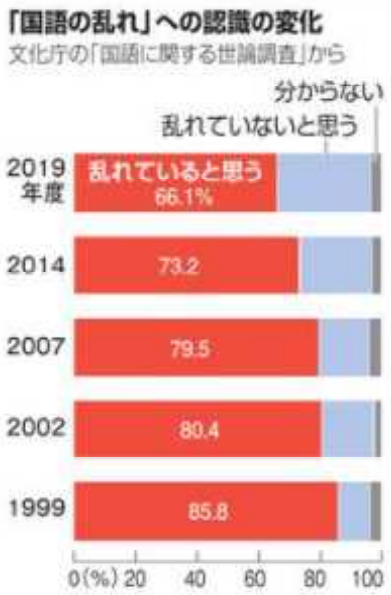
一方で、「他山の石」という言葉の意味が「分からない」と思う人もおられます。

文化庁が発表した2013年度「国語に関する世論調査」では、本来の意味とされる「他人の誤った言行も自分の行いの参考となる」で使う人が30.8％、本来の意味ではない「他人の良い言行は自分の行いの手本となる」で使う人が22.6％という結果が出ています。

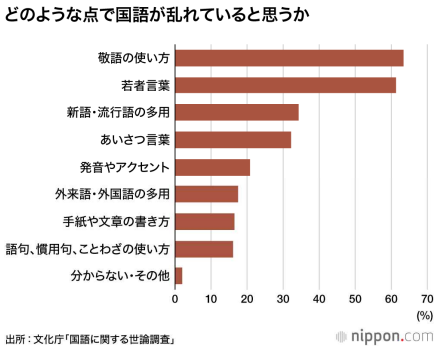
こんな事で日本語の将来は大丈夫なのかと嘆く方もおられると思います。

2020年9月6日付の朝日新聞によると、「国語が乱れている」と感じる人が20年前と比べて減り、「乱れていない」と感じる人は増えています。文化庁が発表した2019年度の「国語に関する世論調査」で、日本人の国語の乱れに対する意識の変化が明らかになりました。専門家はSNSなどの普及で文章を発信する機会が増え、様々な表現を受け入れる傾向が強まったとの見方を示しています。

2019年度の調査では16歳以上の男女1994人が答えました。「今の国語は乱れていると思いますか。それとも、乱れていないと思いますか」との質問に「非常に乱れていると思う」と「ある程度乱れていると思う」を選んだ人は計66.1％。乱れていると思う点を複数回答で聞くと「敬語の使い方」と「若者言葉」がそれぞれ6割を超えました。一方、「余り乱れていないと思う」と「全く乱れていないと思う」を選んだ人は計30.2％。その理由は39.0％が「言葉は時代によって変わるものだと思うから」、29.9％が「多少の乱れがあっても、根本的には変わっていないと思うから」を選んでいます。



文化庁は1995年度から毎年、調査を実施。この質問は99年度調査から5度聞いており、「乱れて



いる」は99年度から約20ポイント減り、「乱れていない」は約20ポイント増えました。同庁国語課は「スマートフォンやSNSの普及で人々が文章を発信する機会が増え、多様な表現に触れやすくなった。辞書などで本来の意味とされるものと違うと思っても寛容に受け止める人が増えつつあるのでは」とみています。

コラムニストの小田嶋隆さんは「私たちはメールやLINEなどで素人が書いた口語に近い文章をかつてないほど大量に読んでいる。日本語に期待する要求水準が下がり、寛容というより雑になった」と分析しています。田中ゆかり・日本大学教授（社会言語学）は「多少間違った表現があっても素早く返事をする方が求められる場面が増えた。こうあるべきだという意識が社会全体でゆらいでいることも影響したのでは」と話しています。

世間では御朱印集めがブームになっているそうですね。

また、正月には大勢の人が初詣に神社に行かれると思います。

ところで、拝殿の前で「パチパチ」と手を叩き拝んでいますね。この「パチパチ」手を叩く行為を何と言いますか。

当然、「かしわでを打つ」という回答が帰ってくるはずです。では、どの様な漢字を書くのでしょうか。「柏手」「拍手」？

「拍手」は「はくしゅ」でしょう。コンサートじゃあるまいし、『はくしゅ』とは軽々しすぎるのではと叱られるかもしれませんね。

では、「二礼二拍手一礼」は何と読みますか？　「…にかしわで…」とは言わないですね。

阿佐谷神明宮のホームページには『神さまを拝むとき、両方の手のひらを打ち合わせて鳴らすことを「かしわで」といいます。漢字で拍手、柏手と書きますが、これは拍（はく）の字が「柏（かしわ）」の字と混同されて用いられたことから生じた呼称ともいわれています。拍手については、中国の史書「魏志倭人伝」に倭人の風習として、貴人に対し手を打ってひざまづいて拝礼をしていたことが記されていることから、当時は人にも拍手をしていたことがわかります。神道における拍手も同様に、敬う気持ちの表れといってもよいでしょう。』

Wikipediaでは「かしわで」という呼称は、「拍」の字を「柏」と見誤った、あるいは混同したためというのが通説である。他に、宮中の料理人である「膳夫（かしわで）」と関連があるとする説や、手を合わせた時の形を柏の葉に見立てたとする説もあると書かれています。

「拍手」（はくしゅ）と言っていたのを、誰かが字を間違えて「柏手」とし、それが広まったものなのに、今だと、拍手というと歌手などのステージを前にしているようで、神社では柏手（かしわで）の方がぴったりくるように思いますね。

こうなると、何が正しい言葉かという判断が難しくなってきます。結局は、その時々の多数の人たちが使っている言葉、使っても変だと思われることのない言葉が正しい言葉だと言うほかないようです。これも言葉の乱れでしょうか？

いくら、本来は「ハクシュ」と読んでいたといって、対面リーディングで読むと「ハクシュ？」何だろうと思われたり、漢字を知らない人だなぁと思われるのが落ちです。

反対に、言葉の変遷をよく知った方には一目置かれるかもしれません。

「二礼二拍手一礼」は神社参拝の基本のように思われています。が、少し年齢が上の世代になれば、自分が若い頃は、そんな参拝の仕方はしていなかったと、昔を思い出している人たちもいるのではないでしょうか。宗教学者の島田裕巳氏によれば、二礼二拍手一礼という参拝の作法が広まったのは、それほど昔からのことではないそうです。いつから広まったのかについては、はっきりしたことは分からないが、浸透したのは平成の時代になってからで、昭和の時代には、まだそれほど広まってはいなかったのではないだろうかと書かれています。

古い映画やニュース映画を見ると「二礼二

拍手一礼」と違った拝み方をしているのがよく分かります。

このように、言葉も行為も時代とともに変遷していくものなのです。

若者言葉で驚いた言葉は沢山ありますが、「全然」もその1つです。「全然美味しい」とか「全然足りる」などのように肯定的に使う若者が増えてきました。

「全然」の使い方としては、「全然+否定」という形で使われるのが一般的であり、正しい使い方であるとされています。
ところが、

⑴ そこで三人が全然翻訳権を与次郎に委任する事にした （夏目漱石 三四郎）

⑵ この老婆の生死が、全然自分の意志に支配されているということを意識した（芥川龍之介 羅生門）

なんだかおかしいですね。日本を代表する小説家がと嘆く前に「全然」の使われ方の変遷を見ていきましょう。

「全然」は江戸後期に中国語からの借用語として日本語に入ってきました。これが日本語として定着・確立するのは明治40年代以降で、この時代の「全然」は否定的にも、肯定的にも使うことができました。つまり、誤った用法と見なされている現在と同じ状況だったのです。

昭和10年代における「全然」の使用実態調査によれば6割が肯定表現だったそうです。

「最近“全然”が正しく使われていない」といった趣旨の記事が昭和28～29年（1953～54年）にかけて学術誌「言語生活」（筑摩書房）に集中的に見られることから、「本来否定を伴う」という規範意識が昭和20年代後半に急速に広がったのではないかと思われます。

一方、辞書の世界では新しい変化も出てきています。三省堂の大辞林第3版（2006年）では、旧版にはなかった「明治・大正期には、もともと『すべて』『すっかり』の意で肯定表現にも用いられていたが、次第に下に打ち消しを伴う用法が強く意識されるようになった」という記述が追加されています。

ここで、少し脱線。

日経スタイルの記事に、こんな記事が書かれていました。長女の交換ノートを見せてもらったところ「信友」「新友」「親友」「心友」という漢字が書かれていたのです。

たわいのない文章の中にちりばめられたこれら「しんゆう」は、子供たちが作った言葉なのか調べてみると複数の小型国語辞典に「心友」を見つけることができたそうです。50万語を網羅する日本国語大辞典第2版（小学館）に当たってみたところ、「心友＝同心の親友。心を許しあっている友人」「信友＝誠意のある友人、信頼できる友」のほか「真友＝ほんとうの友人。真実の友」があり、「親友」以外も古くからある言葉だということも分かりました。

驚いたことに、子供たちの使う「しんゆう」には序列がありました。「新友」は「新」の字から類推できるように、最近仲良くなった友達のこと。付き合いが徐々に深まり仲良しグループの一員となった証しが「親友」。このころには母親同士が顔見知りになり、「親も友達」という意味もあるようです。もっと打ち解けてくると心を許す「心友」で、最も信頼を置く大切な友である「信友」となるわけです。辞書の意味とは多少異なるものの、子供でも分かりやすい意味で使い分けられていたのです。

また、「当て字・当て読み漢字表現辞典」（三省堂）によると、他に「神友」「深友」もあり、地域や世代間で「しんゆう」表記は現在も進化しつつあるようです。

記事では、『これらの「しんゆう」は日本語の乱れなのでしょうか。長女らが意味を持たせて書くそれぞれの「しんゆう」を単なる日本語の乱れや若者ことばの類いで片づけてしまうのはさびしい気がします。「世の中でひとくくりにされがちなものの間に性質の異なりを見いだして、その異質性を重視している」（竹林准教授）という点で、親としてはこれを子供の成長と評価してやりたいと思っています。今後、成長の過程で多くの「しんゆう」に出会えることを願ってやみません。』と締めくくっています。

う～ん、奥深いですね。乱れか進化か。
頭が疲れたところで、クイズです。頭をほぐしましょう。

私たちが日頃当たり前のように使っている言葉の中に、誤用されることが特に多い言葉を選びました。aとbのどちらが正しい使い方でしょう。

１.【耳ざわりの良い】
　ａ 耳ざわりの良い音楽
　ｂ 耳ざわりな雑音

２.【「おざなり」と「なおざり」】
　ａ 商売をおざなりにしたので店が傾いた
　ｂ 商売をなおざりにしたので店が傾いた

３.【血と □ の結晶】
　ａ 血と汗の結晶
　ｂ 血と涙の結晶

４.【あとで後悔する】
　ａ いま頑張らないとあとで後悔する
　ｂ いま頑張らないと後悔する

次の漢字はどちらが正しいですか？
５.【興味しんしん】
　ａ 興味津津
　ｂ 興味深深

６.【なかば】
　ａ 今年も半ば
　ｂ 今年も中ば

１.　ａ×　ｂ○
「耳ざわ（障）り」とは、聞いて不愉快になったり、イヤな感じがしたりするという意味。したがって、「耳ざわりの良い」というのでは意味が通りません。
「家の前を通る車のエンジン音が耳ざわりでならない」などが正しい使い方です。

２.　ａ×　ｂ○
「おざなり」はその場逃れの言動やいい加減なこと、「なおざり」はおろそかにしたり放っておいたりすること。したがって、商売という言葉と結びつくのは「なおざり」。「おざなりな言い訳をする」などがおざなりの正しい使い方です。

３.　ａ○　ｂ×
「血と汗」はたいへんな努力や忍耐を表わす語です。それらを流してやっと出来あがった結果を、「血と汗の結晶」といいます。冷酷という意味の「血も涙もない」と混同する人がいますが、「血と汗」が正しい言葉です。

４.　ａ×　ｂ○
「後悔」の意味は、あと（後）になって悔やむことです。そこで、わざわざ「あと（後）で」とつける必要はありません。話し言葉ではよく「あとで後悔する」を耳にしますが、意味の重複なので注意しましょう。

５.　ａ○　ｂ×
「興味津津」とは、ある事柄に対して強い関心があることや、興味が尽きないこと。「津」はあふれるという意味で、「津津」と重ねて、あふれ出るさまを表現します。「深深」は静まり返ったという意味なので「興味深深」と書いては誤りです。

６.　ａ○　ｂ×
「なかば」とは、半分、中ごろ、中途などの意味を持つ語です。漢字で書く際には、真ん中の「中」ではなくて、半分の「半」を使います。「志半ばで断念する」「十月半ば」のように使います。

言葉は生き物です。新しい言葉が使われ始めた時は、その頃の大人たちが「変な言葉だ」と眉をひそめたとしても、みんなが普通に使うようになれば、誰も変だとは思わなくなり、とうとう辞書に載ったりするのです。
かえって元の正しい言い方が間違いだと思われてしまうことさえあります。

「声は人なり 言葉は心なり」

寄り道・回り道

レポーター：木村（きむら） 謹治（きんじ）

ハザードマップ

世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症が終息せず、レストランのレポートもままなりません。

そんな訳で、新型コロナウイルスから我が身を守るのと同じように、災害から身を守る対策を考えたいと思います。

熱海市では大規模な土石流が発生し、家が流され、多数の行方不明者と死亡者を出してしまいました。

災害が起こるたびに記録的な〇〇、近年にない〇〇などの言葉が並びます。今までの経験則では通じなくなって来ています。

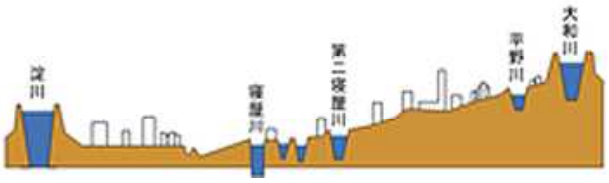
自然災害も色々ありますが、今回は水害について考えましょう。

想定されている水害は、河川氾濫、高潮、内水氾濫及び津波の4種類があります。

大阪では昭和初期から工業用水として多量の地下水を汲み上げたため、地盤沈下が起こり深刻な問題となりました。

地表の高さが満潮時の平均海水面よりも低い海抜０メートル地帯も広がっています。

もともと大阪市は、淀川、神崎川、大和川、寝屋川といった大きな河川と海に囲まれており、市街地の9割までが平坦な低地で自然排水が困難なため、大雨、津波による水害に対して非常に弱い地形といえます。



こんな大都会で、しかも平地で水害が起こるはずはないと考えるのは早計です。下の写真は2013年に大阪市付近で起きたゲリラ豪雨によって、阪急梅田駅前の繁華街の道路が水没した様子です。

Twitter上では「梅田やばい」「梅田が川になっとる」「泳げるんちゃうこれ」などと、写真付きで衝撃を伝えるツイートであふれていました。

都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいため、川や水路、下水道に一気に集まる傾向があります。

集まった水は低い方へ、低い方へと流れて行き地下街や地下鉄が浸水する恐れがあります。

名古屋市では大雨の影響で地下鉄線路が浸水しました。

また、福岡市営地下鉄も滝のように流れ落ちる水の写真が残っています。排水設備は完備しているのですが、能力を超える浸水にはなすすべがありません。

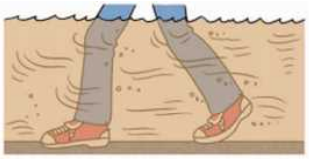
地下からは地上に出る出口が限られていて、しかも大量に水が流れ込めば、流れに逆らって上がるのは困難です。まるで水牢です。

また、地下では地上の様子が分かりにくいので、大雨が降っていても気がつかない場合があります。

浸水に気がついたら素早く近くの建物の3階以上に避難しましょう。できれば、階段かエスカレーターを使っての避難が望ましいです。エスカレーターなら止まっても歩いて登る事が出来ます。

出水は思ったより早く増水します。あっという間に家が浸かってしまったとの多くの証言があります。

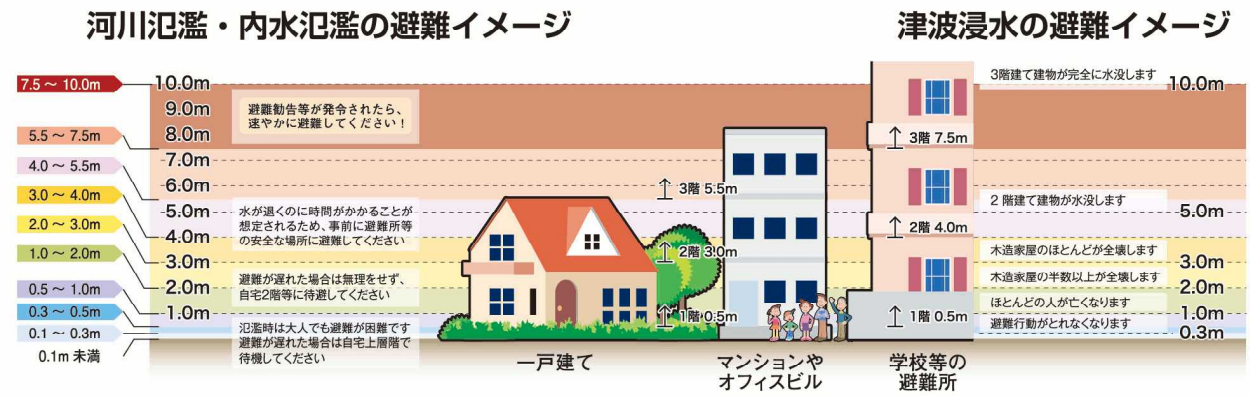
知らないビルであっても躊躇している暇はありません。素早く行動する事が生死を分けます。



これぐらいの水位なら大丈夫と思わないで下さい。20㎝ぐらいでも流速がある場合は足を取られることがあります。

また、増水時には水が濁っていて足下の様子が分かりません。

側溝や水路に転落する危険があります。都会では下水が逆流してマンホールの蓋が開く事があります。とても危険な状態です。



スマホをお持ちの場合は防災アプリを登録されておく事をお薦めします。

・防災速報　（ヤフージャパン）

・NHKニュース・防災（NHK）

その他色々なアプリを無料で入手する事ができます。出来れば複数のアプリを利用する事が重要です。

家と情文との往復だけではなく、旅先での地震や津波、洪水などいざという時に役立ちます。

アプリとともに普段からハザードマップを見ておく事が大事です。

例えば情文のある西区の水害ハザードマップ（西区）https://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000300825.html には、次のように書かれています。

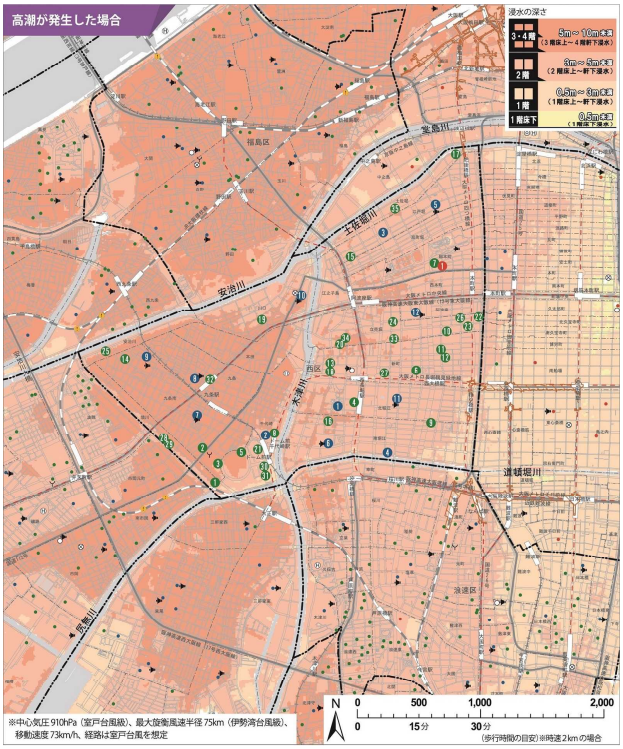
西区では、高潮及び内水氾濫による浸水と南海トラフ巨大地震による津波浸水が想定されています。

このマップを参考に、いざというときに安全に避難できるよう、安全な避難場所（災害時避難所等）や避難経路を普段から確認しておきましょう。

避難先は、公的な避難場所に限りません。近くの家族や親戚、知人宅への避難について日頃から相談しておいてください。

また、風雨の激しいときに避難するのはかえって危険であり、安全が確保されているならば自宅で待機することも避難方法のひとつです。

想定図は想定される浸水の最大深を示していますが、想定以上の豪雨により、浸水地域や浸水の深さが大きくなる可能性もあります。



避難行動のシミュレーション

ハザードマップを参照して避難場所や避難経路を確認したら、次は実際の避難行動をシミュレーションしてみましょう。

地震が起こったときに、私たちが頭を守ったり脱出口を確保するためにドアや窓を開いたりといった行動をスムーズに取れるのは、私たちが過去に地震災害を想定した避難行動のシミュレーションを行ったことがあるからです。逆にいえば、実践的なシミュレーションの経験がないにもかかわらず正しい避難行動を取ることは、非常に難しいことです。

これと同様に、内水氾濫・外水氾濫の場合においても、下記のような項目で、できる限り実践的な避難行動のシミュレーションを行っておきましょう。

- 実際に避難経路を歩いてみる
- 実際に避難場所へ赴いてみる
- 避難時を想定して荷造りをしてみる
- 第一候補の避難経路が断たれることを想定し、第二、第三の経路も歩いてみる

可能な限り実際の内水氾濫・外水氾濫を意識しつつ、上記を踏まえて実践的なシミュレーションを行うことが、水害時に命を守ることへつながります。

こんな時こそ「寄り道・回り道」が役に立ちます。色んなことを想定して、キョロキョロしながら確認していきましょう。

最後に「正常性バイアス」という言葉をご存じでしょうか？

人間が予期しない事態に対峙したとき、「ありえない」という先入観や偏見（バイアス）が働き、物事を正常の範囲だと自動的に認識する心の働き（メカニズム）を指します。

何か起こるたびに反応していると精神的に疲れてしまうので、人間にはそのようなストレスを回避するために自然と“脳”が働き、“心”の平安を守る作用が備わっています。ところが、この防御作用ともいえる「正常性バイアス」が度を越すと、事は深刻な状況になります。

つまり、一刻も早くその場を立ち去らなければならない非常事態であるにもかかわらず、“脳”の防御作用（＝正常性バイアス）によってその認識が妨げられ、結果、生命の危険にさらされる状況を招きかねないのです。

時と場合によって逃げ足の速い人間になる事が本人や家族や知り合いを助ける事になります。

漢字あれこれ（その4）

対面リーディングボランティア　澤井（さわい） 稔（みのる）

その①　弁慶読み

切るべきところで切らないとヘンな言葉が生まれます。昔、無学な講釈師が、「弁慶がな、ぎなたを持って」と切り違えて読みました。そこで切り方を間違えて読む読み方を「弁慶読み」と呼んでいます。

①間髪を容れず=「かん、はつをいれず」と読みます。すきまに髪さえ入らないくらい差し迫っている事。
②屋上屋を重ねる=「おくじょう、おくをかさねる」と読みます。無駄なことをする事。
③口角泡を飛ばす=「こうかく、あわをとばす」と読みます。口のわきに泡を吹くほど、盛んに議論する事。
④蛇穴に入る=「へび、あなにいる」と読みます。歳時記で秋の季語になっています。
⑤一敗地に塗れる=「いっぱい、ちにまみれる」と読みます。戦いに負けて無残な惨状で泥だらけになるということで、徹底的な敗北を喫する事。
⑥一頭地を抜く=「いっとうちをぬく」と切らずに読みます。他の人より頭一つ抜け出て優れている事。
⑦好事魔多し=「こうじ、まおおし」と読みます。良い事にはとかく邪魔が入りやすいという意味。
⑧鬼面人を驚かす=「きめん、ひとをおどろかす」と読みます。鬼の面で人を驚かす行為で、要するにこけ威しという事。
⑨大義親を滅す=「たいぎ、しんをめっす」と読みます。大きな正義を行うためには肉親の情にとらわれてはいけないという事。
⑩習い性となる=「ならい、せいとなる」と読みます。習慣がいつのまにか第二の天性になってしまう事。なお、「習い性」は「ならいしょう」で習慣的な行動様式の意味。習性。
⑪技神に入る=「ぎ、しんにいる」と読みます。非常に優れていて人間技とは思えないような域に達する事。
⑫事志と違う=「こと、こころざしとちがう」と読みます。
⑬風雲急を告げる=「ふううん、きゅうをつげる」と読みます。
⑭位人臣を極める=「くらい、じんしんをきわめる」と読みます。臣下として最高の地位につく事。
⑮幽明境を異にする=「ゆうめい、さかいをことにする」と読みます。あの世とこの世とに別れる事。死別する事。
⑯胆斗の如し=「たん、とのごとし」と読みます。肝っ玉が坐っていて、ものに動じない事。

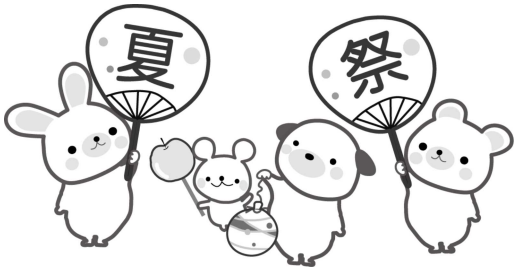
その②　難読漢字☆あれこれ

①伝播(でんぱ)=広く伝わる事。
②残滓(ざんし)=のこりかす。(ざんさい)は慣用読み。
③弛緩(しかん)=ゆるむ事。(ちかん)は慣用読み。
④修祓料(しゅうふつりょう)=邪気を払い、お祓いをする料金。(しゅうばつりょう)は慣用読み。
⑤貼付(ちょうふ)=糊などではりつける事。(てんぷ)は慣用読み。

⑥口腔(こうこう)=口から咽頭に至る部分。(こうくう)は慣用読み。
⑦遡及(そきゅう)＝過去にさかのぼる事。(さっきゅう)は慣用読み。
⑧憧憬(しょうけい)=あこがれる事。(どうけい)は慣用読み。
⑨直截(ちょくせつ)=手っ取り早い事。きっぱりしている事。(ちょくさい)は慣用読み。
⑩天稟(てんぴん)=生まれつきの才能。(てんりん)は慣用読み。
⑪甦生(そせい)=意識が戻る事。蘇生。(こうせい)は慣用読み。

漢字の偏(へん)や旁(つくり)から勝手に推量して読む方法が定着して多用される言葉が有ります。その内の幾つかは辞書にも載るようになりました。日本語の漢字の系譜は本当に複雑ですが、楽しみながらボチボチと見ていきましょう。

おしらせ



・対面リーディング再開の目安について

2021年7月現在、当館では大阪モデルが赤信号のあいだは対面リーディングを休止することとしています。ご存じの通り、大阪府のまん延防止等重点措置が8月22日まで延長、大阪モデルの赤信号も延長されることとなりましたので、対面リーディングサービスの再開を再度延期しています。

大阪モデルが黄信号になり次第、利用者からの受付を再開いたしますので、その際には改めてご協力をお願いしたいと思います。

対面リーディング再開時にはこれまで通り、感染予防に細心の注意を払いながら、利用者サービスの提供と、ボランティア活動の継続に努めて参ります。

何卒ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

・8月10日（火）から14日（土）まで、対面リーディングはお休みです

当館の夏期休館に伴い、8月10日（火）から14日（土）まで、対面リーディングもお休みとなります。上記の通り、新型コロナウイルスの感染対策の大阪モデルが赤信号の間は対面リーディングは休止いたしますが、黄色信号になり再開されている場合でも、上記日程はお休みとなります。

実は今号は記念すべき第200号！編集作業中に気付くという大失態。コロナが落ち着いたら「200号突破記念」をできればと思っています。アイデア募集中です！（F）

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6136-7704（対面専用）
06-6441-0039（サービス部）